



栗田 英明 (政新クラブ) 認識は



市長の自治基本条例の

問／自治基本条例は地方自治体の憲法であり、上越市の最高規範と位置付けられている。中川市長はこれをどう認識し、何を課題として取り組んでいくつもりか。

答／条例にある「市政運営の基本原則」に従い市長としての責務を全うしたい。課題については、地域が主体としてこの条例の理念を理解し活動しているかを検証していきたい。

総合計画やそれに連なる主要計画の見直しは

問／第6次総合計画は来年度までをその期間としている。財政計画、行政改革、地方創生の取組も含め、令和4年度で修正すべき点はないのか。

答／公約で掲げた政策と総合計画の内容が大きく異なるものはないことから、見直しは考えていない。それに連なる行財政計画等もこのまま継続していく。

問／第7次総合計画の策定過程において、市民の声を聞く仕組みを考えているか。

答／市政に対する重要度や満足度を調査するため、令和4年1月に市民5千人を対象にした市民の声アンケートを実施する。また、地域で課題解決に取り組む市民グループや団体と意見交換を行うとともに、学生たちに将来の上越市を考えてもらう機会を設けていきたい。



金谷地区公民館整備の方向性は こんごう 彰治 (政新クラブ)



問／市内28区のうち、金谷地区公民館だけが唯一、地区内に存在していない。築40年経過し老朽化も進んでいる。現在までの協議の内容と、来年度の方向性を聞きたい。

答／今年度は、地区の代表と2回の意見交換を実施した。ヨードル金谷南側用地及び寺町駐車場の市有地を設置場所として検討している。来年度は、地質調査や施設設計などが必要になる。地域との協議を継続しながら準備を進める。

市長の選挙公約の具体案は

問／市長公約の「しがらみ」の具体的な意味は。

答／業界団体や関係各社から寄附や借入れを行わないという意図である。

問／通年観光とは、どのようなイメージか。

答／雁木町家や寺町の街並み環境の整備をはじめ、鉄道博物館の整備により鉄道のまち・直江津の歴史と物語を発信する拠点とし、春日山城を本格的な観光地として整備し、上杉謙信公や春日山の歴史文化を伝えていきたい。

戊辰戦争に関係する市の対応は

問／会津若松市長・議長等が墓参りに訪れたが、上越市の対応がなかった。今後の対応はどうか。

答／今後、交流の機会を得られるよう、関係者が来越の際は、担当部局を通じて連絡したい。



最終処分場選定はより丁寧な説明で地元合意を 宮川 大樹 (みらい)



問／令和3年3月に県は、廃棄物最終処分場建設予定地に上越市の5か所を選定したが、候補地の町内会のみならず周辺町内会や関連の農業団体等にも説明会を実施して、より多くの市民から理解を得る必要があると思うが、建設予定地の選定に関する進捗と在り方はどうか。

答／県は、候補地の町内会や地域協議会への説明会、「エコパークいずもぎぎ」の見学会など、住民の理解を深める取組を進めてきた。現在、県と市が連携しながら、各候補地の現地調査や地元からの要請に基づく座談会などを開催しており、地元以外の周辺町内会や農業・漁業関係者への説明会も順次実施する。より多くの市民から理解を得た上で建設候補地を決定したいとされており、令和3年度中の建設予定地決定にこだわらず丁寧な説明を尽くしたい。

問／通年観光では「雁木町家・寺町」「直江津」「春日山城と上杉謙信公」の3つの振興を中核にしたいと公約にあるが、その他、13区にも素晴らしい観光資源がたくさんある。それらの振興をどうするのか考え方を聞きたい。

答／予算は限られており、選択と集中を考えると、まずは3つの中核を優先したい。

問／高田城復元を前に進める考えはあるか。
答／安易な整備はせず、長期的視野に立つて慎重に検討を進めたい。